

滋賀県の地震

令和5年(2023年)8月

目次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

3 地震一口メモ

関東大震災から100年	-----	6
-------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

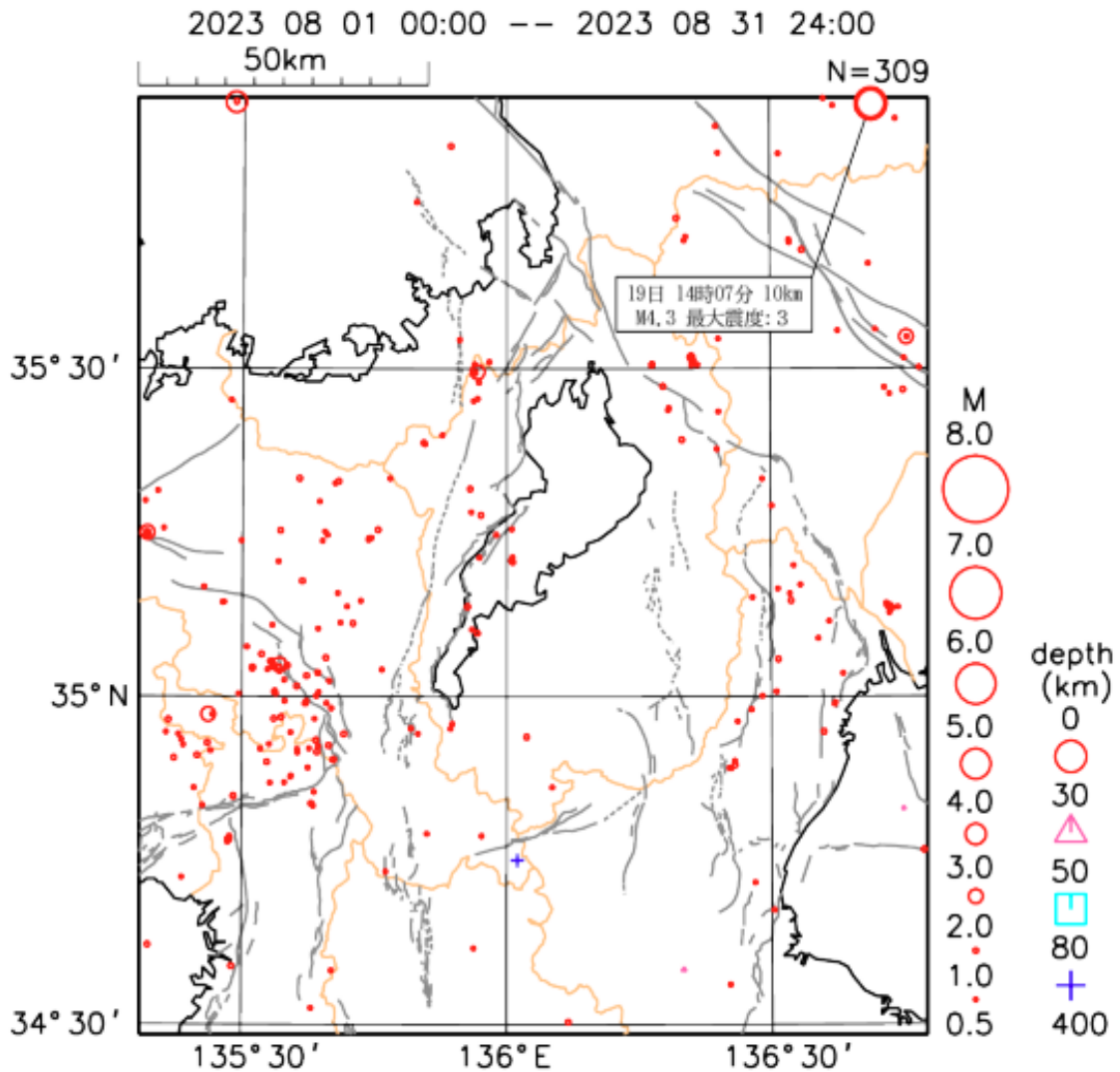
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和5年8月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表す。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

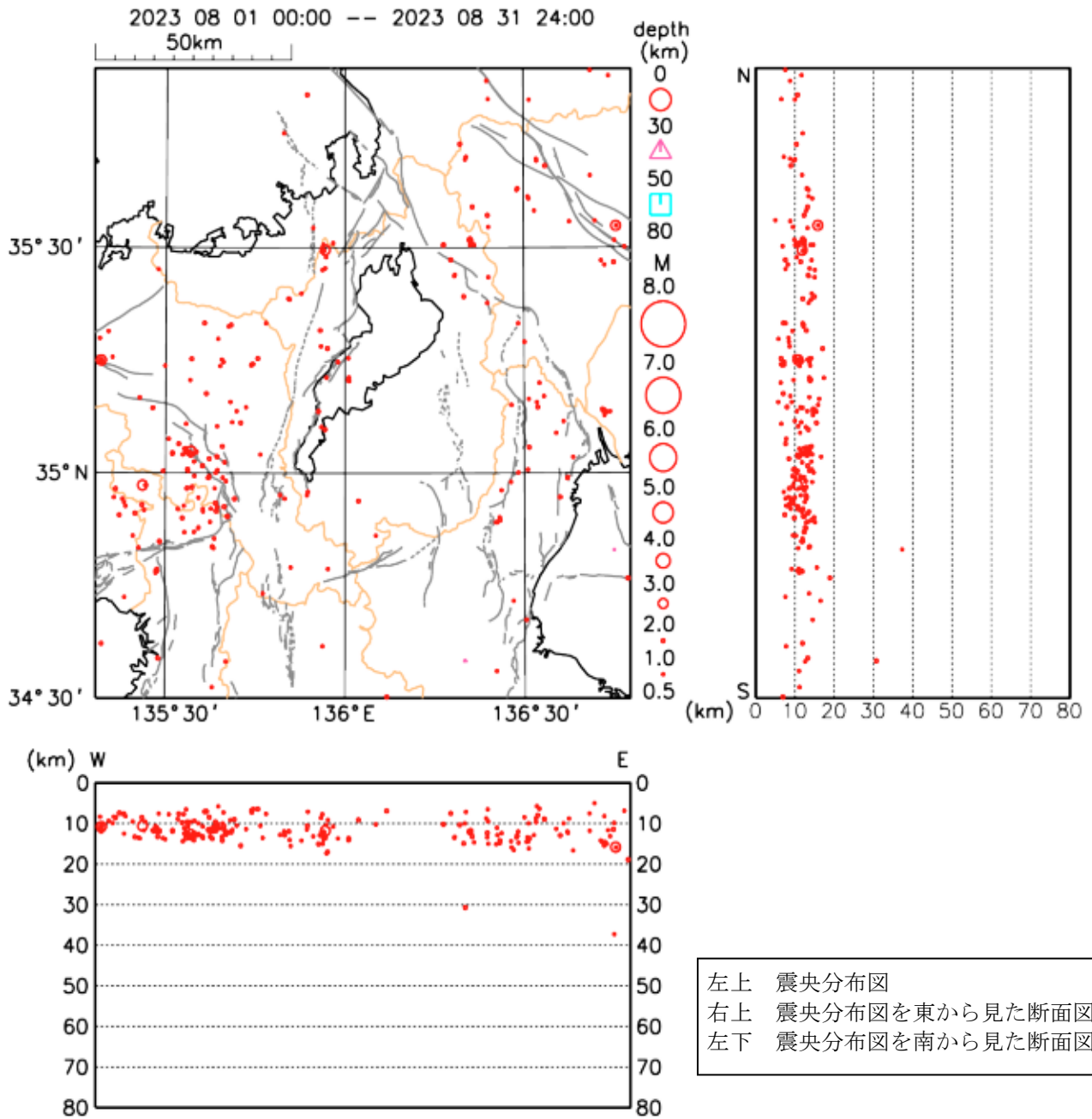
(2) 概況

8月に震央分布図内で震源決定できたM2.0以上の地震は11回（前月14回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回（前月0回）でした。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

19日14時07分 福井県嶺北の地震（M4.3）：彦根市、長浜市、高島市、米原市、大津市、近江八幡市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、東近江市、日野町、竜王町で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
------	------	----	----	----	---------

各地の震度（滋賀県内のみ掲載）

2023年08月19日14時07分	福井県嶺北	35° 54.2' N	136° 41.6' E	10km	M4.3
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

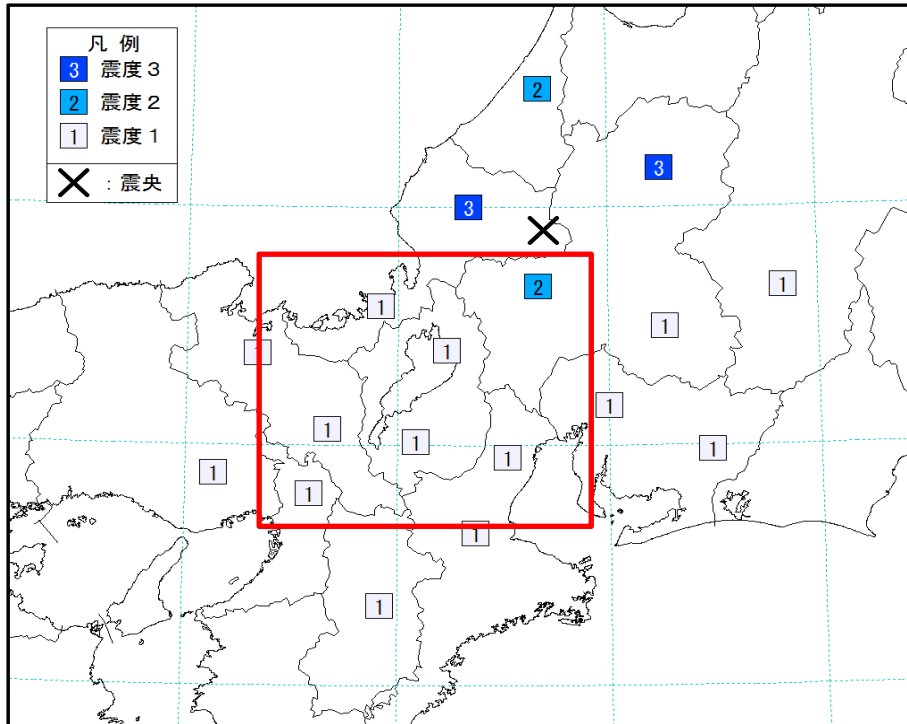
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1：**彦根市城町**, 長浜市公園町*, 長浜市内保町*, 長浜市湖北町速水*
 長浜市木之本町木之本*, 長浜市余呉町中之郷*, 長浜市西浅井町大浦*
 長浜市八幡東町*, 長浜市宮部町*, 長浜市難波町*, 高島市朽木柏*
 高島市朽木市場*, 高島市勝野*, 米原市春照*, 米原市米原*, **大津市南小松**
近江八幡市桜宮町, 近江八幡市出町*, 栗東市安養寺*, 滋賀日野町河原*
 竜王町小口*, 野洲市西河原*, 湖南市中央森北公園*, 湖南市石部中央西庁舎*
 甲賀市甲賀町大久保*, 甲賀市信楽町*, 東近江市市子川原町*

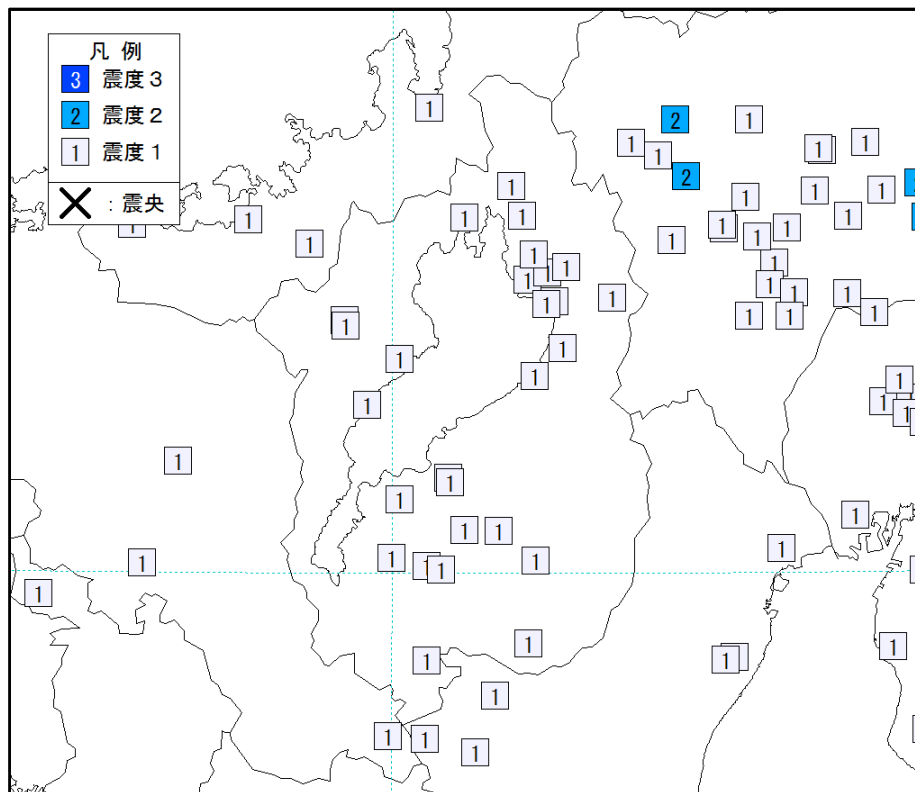
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

2023年8月19日14時07分 福井県嶺北 (M4.3)



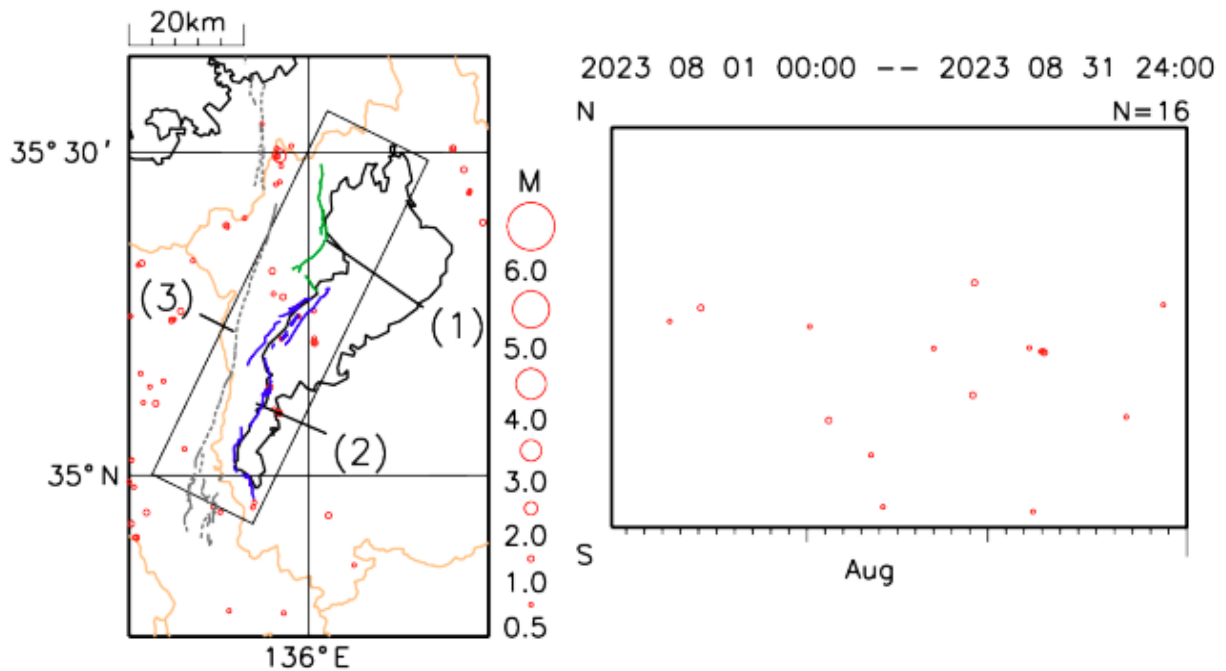
各地域の震度分布図(×印は震央位置)



各観測点の震度分布図(各地域の震度分布図中の赤矩形領域内)

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 5 年 8 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度（実線部>破線部）を表す。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸（縦軸）に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図（規模別）

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市（旧マキノ町）から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

（地震調査研究推進本部の長期評価（2009）による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2023 年 1 月 1 日。）

2) 概況

8 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回（前月 0 回）で、同領域内の地震で、震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

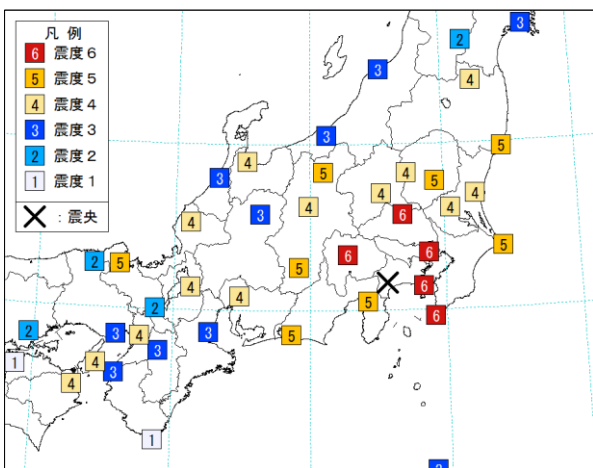
3 地震一口メモ

関東大震災から 100 年

今年（2023年）は1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災から100年の節目にあたります。関東大震災は神奈川県西部を震源とするM7.9の地震（大正関東地震）により生じた災害です。この地震では埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測しました。当時震度階級は6までしか存在していませんでしたが、住家の全壊率などからは神奈川県や房総半島南部の一部地域、また都心部においても現在の震度7に相当する地域があったと推定されています。

この地震では津波や土砂災害による被害も発生しましたが、火災による被害が顕著でした。これは地震発生が午前11時58分と昼食の準備のために火を使っていた家庭が多く、発生した火災が日本海にある台風に向かって吹く強い南風に煽られて燃え広がったためです。また、被災者が家財などを持って避難したことも被害を拡大させた要因と言われています。関東大震災では死者・行方不明者が約10万5000人と甚大な被害となりましたが、死因の約9割が焼死と言われています。

しかし、地域住民による消火活動や広い広場・道路などで延焼を食い止めた事例もあり、災害に強いまちづくりをすることや、災害時に地域住民で助け合う共助の考えが重要であるということが広く知られることになりました。



各地の震度（1923年当時の震度階級）



東京駅前の焼け跡、日本橋方面（気象庁HPより）

1960年にはこの地震の発生した9月1日が「防災の日」として定められました。この日は関東大震災や台風の襲来が多いとされる二百十日ごろにもあたります。このことから政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する契機とされています。突然発生する地震や頻発する大雨などの災害時にどうすべきか一度考えてみたり、地域で開催される防災訓練などに参加してみてください。

気象庁HP「関東大震災から100年」特設サイト

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/1923_09_01_kantoujishin/index.html

内閣府HP「関東大震災100年」特設ページ

<https://www.bousai.go.jp/kantou100/>

気象庁HP 地震から身を守るために

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/jishin_bosai/index.html